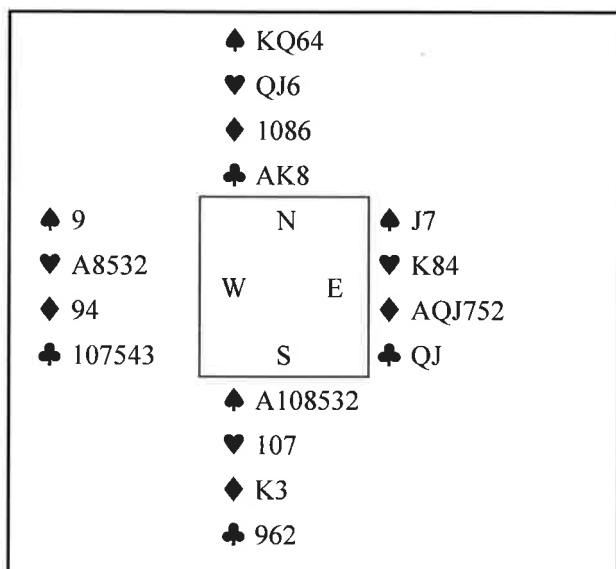




事実、推論、イマジネーション、そして希望

ブリッジでは、プレイにおいても、ディフェンスにおいても、そしてオークションにおいても事実、推論、イマジネーション、そして希望がまぜこぜに出てきて、このどれもが非常に重要な意味を持っています。上級者ほどこの3つをうまく使い分け利用しているのです。

「イマジネーション」と「推論」にいて次の例を見てください：



Sのウィーク2Sからはじまって最終コントラクトはSの4Sとなります。Eは世界のトッププレイヤーと目されているノルウェイのゲイル・ヘルゲモで、途中でダイヤモンドのオーバーコールを入れます。彼はパートナーのD9のリードをDAで上がって、普通の人にはパートナーがシングルトンならいいなと考えてダイヤリターンをするところですが、CQをリターンします。トランプを2回で刈られた後H6がダミーから出されず。これをKとセカンドハイしてCJ

を出すのです。クラブが2枚しかないので最後のC10を取るのにはパートナーでなければなりませんから、先にKと上がるのです。このディフェンスのすばらしさには、まず最初に、パートナーにC10があること、ディクレアラーは3枚クラブを持っていて1ルーザーあるとのイマジネーションを持つことから始まります。またダイヤモンドはディクレアラーはKx、パートナーも9xと読んだことも重要です。そしてその後は推理になります。ウィーク2オープンをしていますからディクレアラーにはHAはなくパートナーだろうということです、こう推理できれば、あとはディフェンスの順序の組み立てになります。ディクレアラーがハートをセットアップするより先にクラブをセットアップしなければならない、つまりHKを先に取ってクラブを出すことです。またダイヤモンドKで相手にテンポを渡してしまうと間に合わなくなってしまいます。

これはすばらしいディフェンスですが、まず根本にクラブの持ち方でイマジネーションされたものがあるということです。そのあとは推理と組み立てになります

さて「事実」の方ですが、プレイにおいてもディフェンスにおいては推論のスタートとなります。このディフェンスはRoger Trezelの本"le jeu de flanc"から取ったものですが

ビッドはSから1NT-2H* : 2S-3D ; 4S///となるでしょう。あなたはEに居て、

| | | |
|---------|----------|---------|
| | ♠ A8732 | |
| | ♥ 742 | |
| | ♦ KQ42 | |
| | ♣ 4 | |
| ♠ 95 | N | ♠ 64 |
| ♥ 10965 | W E | ♥ KQJ |
| ♦ J97 | S | ♦ A65 |
| ♣ J1098 | | ♣ A7652 |
| | ♠ KQJ10 | |
| | ♥ A83 | |
| | ♦ 1083 | |
| | ♣ KQ3 | |

パートナーのWからCJがリードされます。まず事実を集めましょう：ダミーには9HCP、自分には14HCPあります。パートナーから1HCP出てきました。オープンが15-17HCPあること（これは推測です。ほとんど確実ですが）こう推測するとディクレアラーにはCK、CQを持たれています。CAを上がると2つを活かしてしまい、ダミーのハートを2枚ディスカードされてしまいます。これは前にも書いた1勝2敗がいいのか0勝1敗がいいのかの選択ですが、この2敗はハートの0勝に繋がってしまいま

す。したがってCAはあがりません。DJ、D9がパートナーに3枚あってディクレアラーがここに2ルーザーあるかもしれないと考えます。これは「希望」です。実際このハンドはこのようになっていて、CAを上がらないと1ダウンします。なおCAを上がらないとディクレアラーはクラブをダミーでラフシトランプでハンドに戻り、最後のクラブをダミーでラフ、その後トランプを刈って、HAを取ってH3でエグジットしてきます。EはHK、HQをとってっしまってからDAのアンダーリードをします。（これもディフェンスの序盤から中盤にかけては我慢が大事という良い例です）

この2つの例から判るように、まず確固たる事実と確実そうなことを集め、それらから推測できること、そして希望を考えることです。希望する際はイメージションがものを言います。これが上達への道です。